

学校教育目標

自立する生徒

～イメージ豊かに創造しよう～

- ・意欲を持って学習する人
- ・正義を重んじる人
- ・共に生きる人

城山中だより

No. 1 6

令和8年6月15日

綾瀬市立城山中学校

校長 熊本 丈力

6月朝会 校長 挨拶より

梅雨入りに思うこと



昨日、関東地方が梅雨入りしました。曇りや雨の日が続くようになりますね。朝、雨だと、家を出るときに「今日も雨か…」「自転車で登校できないじゃないか」などと気持ちが沈む人もいるかもしれません。でも、ある農家の方が「雨が多い年ほど、作物は根を深く伸ばします。晴れの日ばかりだと、根が浅くなってしまうのです」と言っていました。植物にとって、雨はただの嫌な天気ではなく、見えないところで力を蓄えるための大切な時間なのだそうです。これは私たち人間にも当てはまるのではないかと思います。私たちの毎日の生活にも、晴れの日ばかりでなく雨の日があります。「友達との関係で悩む」「勉強をがんばっているけど、テストで点数がとれない」「部活動で結果が出ない、勝てない」など、こうした日々は、できれば避けたいものです。しかし、植物が雨の日に根を伸ばすように、人もうまくいかない時期にこそ成長の力を蓄えます。たとえば、テスト勉強。順調なときは、ただ問題を解くだけで終わってしまうことがあります。でも、わからない問題にぶつかったときこそ、「どうしてだろう」「どこが違うのだろう」と考える力が育ちます。部活動でも同じで、勝っているときは気持ちよく練習できますが、負けたときこそ、チームで話し合い、工夫し、努力するきっかけになります。つまり、雨の日は、成長の準備をする日、晴れの日を支える力をつくる日、目には見えない根っこを伸ばす日なのです。そう考えると、雨の日の考え方が少し変わってきませんか。

本校の教育目標は「自立する生徒」ですが、めざす生徒の姿の中に「意欲を持って学習する人」と書かれています。意欲とは、調子が良いときだけ発揮されるものではありません。むしろ、気分が乗らない日や、失敗した日の方が、意欲が本物かどうかを試される場面になります。雨の日に根を伸ばす植物のように、うまくいかない時期こそ、自分を支える力を育てるチャンスです。

そしてもう1つ「共に生きる人」というめざす生徒の姿もあります。雨の日は自分だけでなく、周りの人も気持ちが沈みがちですが、そんなときに、友達にかけるひとこと、困っている人にそっと手を差し伸べる行動は、晴れの日以上に大きな意味を持つはずです。

天気も気持ちも揺れやすい6月ですが、最後に梅雨の時期の過ごし方のヒント・考え方を3つ紹介してみます。1つめ「うまくいかない日こそ、やるべきことを一つだけ続ける」例えば「5分だけ勉強する」「1ページだけ読む」など、小さな積み重ねを大切にする。2つめ「気持ちが沈む日は、深呼吸して今できることに集中する」雨の日は、焦らず、ゆっくり、丁寧に。3つめ「雨の日のような気持ちの仲間がいたら、そっと声をかける」「大丈夫」のひとことが、誰かの心の支えになるはずです。あなたが行う「心の根」は、これから先、必ずあなたを支える力になります。6月は成長の季節です。雨の日をどうか大切にしてください。